工石山

工石山は高知市土佐山と土佐町地蔵寺にまたがる双耳峰であり、浦戸湾へそそぐ鏡川の源流高川川と吉野川支流である地蔵寺川の分水嶺となっている。
南北のピークともに眺望に恵まれ、北の頂からは石鎚山へ剣山系が、南の山頂からは高知市街を中心とする高知平野から太平洋が一望できる。
自然休養林(日本第一号)であり樹齢200年に及ぶモミ・ツガ・ブナなどの天然林とスギ・ヒノキの人工林、シロモジなど広葉樹からできている。
シャクナゲ・ツツジ・リンドウ・ツルボなど四季に応じて花が彩る。
また鳥類・昆虫・捕乳類やさいの河原のサンショウウオなどが生息し、生物多様性の宝庫のような存在である。

三辻山へ
赤良木峠
ドロマイト採掘跡
赤錆の遺構
全国から募められた「県の木」植栽
北山越え
昔はトンネルの上を歩いて越えていた
赤良木トンネル
赤良木(アカラギ)はヒメシャラのこと。森の貴婦人とも形容される
県道高知本山線
青少年の家
工石山直売所
おでんもお茶もとってもおいしい〜。
駐車場 WC
杖塚
昭和38年台風19号によって植栽まもない杉が多く倒れその後、上に成長している
根曲り杉
四国山地や嶺北の山々一望
八起白鷺岩
展望台
益救岩
時計も外してスマホも消して人のことは気にせず森に身を置いていると五感が開いてくることを感じる
シロモジ
黒滝の峰がよく見える
赤良木園地展望台
北回りコース
天然林
ヤッホーポイント(山びこポイント)
雨上がりは一面が樹海の甘い匂いにつつまれる
天然ヒノキ風倒根
土佐町と高知市の分水嶺
昭和38年台風19号のため樹令200年の天然ヒノキが倒れたもの
凱旋門
ヒノキの幹が大きなアーチを描く
嶺北の棚田がよく見える
人ど岩
風通しの良い尾根道
石鎚山〜笹〜笹〜四国山脈一望
個性のある大台尾越〜東光寺が印象的な。
美しい水場
さいの河原
鏡川の源流
せせらぎ緑の館
大御堂
ヒノキ
谷を吹き抜ける風に太陽の光を吸いこんだ葉っぱが輝く
風の谷
天空の窓
高川川
山座同定盤
鏡岩(大岩)
北の頂 1177m
工石神社
シャクナゲ道
ひの王屏風岩
ヤマグルマと大岩が一体となっている。根の隙間から青空を望むことができる。
シャクナゲ群生地
銀の岩肌がまぶしい大岩(鏡岩)のとなりにシャクナゲが屏風のように生えている。
工石神社
桜岩展望
山頂 1176m
山頂は一等三角点。太平洋〜瀬戸内海遠くまで広く見える
奇木多い
ヒノキの天然木
イシヅチサンショウウオ
ハコネサンショウウオ
コサワサンショウウオ
の三種が生息
ブナとアカガシの混成林
急傾斜
パワースポット!
風の谷からは高知平野と太平洋までの大展望がひらける。空港の滑走路も正面に見えている。とてもしずかでほんのいろいろな場所だ。
大王なモミ大岩のある静かなコース
太平洋を見下す断崖絶壁の大岩
権現様をお祀りしている
妙体岩
安政五年の手洗石
石段
奥工石神社鳥居
土佐藩主山内公献上の石段
妙体岩は山内一豊が船で土佐に入国する際の目印となったと伝わる
浦戸湾が望見できる
南回りコース
教々の山を歩いてきたが工石山の歩道は最上級に整備されている

山頂周辺にはブナとアカガシが並んで生えている。
冷温帯のブナと暖温帯林に属するアカガシが同じ標高に生育している大変貴重な環境である。
アカガシはある程度低温に耐えられるが、ブナは高温に耐えられない。この二つの樹種が混生していることは工石山が太平洋からの暖かく湿った風と四国山地から吹き降ろす冷たく乾いた風の力だといわれている。
土佐の山の気候はとても奥深くタテ様な自然がこの山に象徴されているようだ。

工石山の山名
古くは「喰石山」「久似志山」とも記された工石山。
名前の由来は諸説あるが高知市出身の民俗学者故・荘井和雄さんは奇岩がタクいことから「奇(く)し石山(いしやま)」が転じたものと考えた。
工石山は県内にもう一つ。本山町と大豊町の境にあり通称「奥工石山」と呼ばれている。(高知新聞より引用)

1683年(天和3年)土佐藩4代藩主山内豊昌公の時代に土佐藩が直接支配する藩有林(御留山)として伐採が禁じられた。
明治に入り官林(国有林)となって現在に至っている。
昭和35年くらいから紙の需要増に伴いパルプ原料として天然林が伐採されてスギ・ヒノキの植栽が積極的に行なわれてきたが、ここは大正3年に水源涵養保安林に指定され伐採制限を受け、さらに昭和46年には県立工石山陽森自然公園の特別地域となり保護されている。

「シャクナゲの杖をつけたら寿限にならん」といわれていた

No.110
2020.12.21